



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 櫻井 弘

令和6年2月9日

第10号

「うるう年 366日」

副校長 美濃谷ひろみ

冬になると空気が澄んだ晴れた日の夜には、星がきれいに見えます。夜空を見上げながら、深呼吸して一日の疲れ癒すのが最近の日課となっています。

今年は、うるう年、いつもより1日多い一年です。現在、私たちが使っている暦は「グレゴリオ暦」といい、世界中の国で使われています。日本の天文学の中核を担う研究機関、国立天文台によると、地球が太陽の回りを一回りするには、約365.24219日かかります。グレゴリオ暦では、1年の平均日数が、この日数に近くなるようにうるう年を入れており、うるう年を次のように決めています。

(1)西暦年号が4で割り切れる年をうるう年とする。

(2)(1)の例外として、西暦年号が100で割り切れて400で割り切れない年は平年とする。

例えば、西暦2020年、2024年、2028年……は(1)に当てはまるので、うるう年になる。また、西暦2100年、2200年、2300年は(2)に当てはまるので、平年となる。さらに、西暦2000年、2400年は、100でも割り切れるが400でも割り切れるので(2)には当てはまらず、(1)のとおりうるう年となる。

今年は4年に1度の2月29日がやってきます。2月は英語でFebruary、その語源を調べてみると、ローマ神話に登場する、月と贖罪の神Februus（フェブルウス）から由来しているそうです。古代ローマでは、戦死した兵士の霊を弔うために、毎年2月にFebruaという慰霊と浄化のお祭りが行われていたそうです。うるう月となる2月、そして自分の過ちを認識し償いを行うFebruusから来るFebruary、自身の考え方や行動を見つめ直すにも良い機会かもしれません。

先日、昨年末に完成した本校の新図書室に新しい書架が設置されました。1年間かけて蔵書も増えました。最近、その中の『16歳の語り部』という本を読みました。宮城県の高校生3名が東日本大震災当時、小学5年生だった時からの経験を語ったものです。1ページごと、言葉が心に響いてきます。「同世代に伝えたいこと、それは『一日ひとつ、なんでもいいから思い出を作ってほしい』震災を経て僕がたどり着いた結論、普段何気なく過ごしている一日は、誰にとっても貴重な一日なんだということを、僕はたくさんの人に伝えていきたいと思っています。」という文章が特に心に残っています。様々なニュースが報道されている中、一日一日の大切さや、平穏な日々のありがたさを感じます。366日ある2024年、みなさんはどのように日々を過ごしますか？

国立天文台のホームページ星空ガイドでは、毎月の天文現象の特徴が掲載されています。2月は『夜20時ごろ天頂を仰ぐと、黄色く輝く、ぎょしゃ座の1等星カペラが見つかる。このカペラには「のとぼし（能登星）」という和名がある。全天屈指の明るさを誇るカペラの光のように、能登も力強く復興することを願う。』とあります。夜空を望みながら、多くの人がそんな気持ちになれたらと願っています。